

第 370 昭和の森自然観察会

冬の植物の過ごし方

梅宮玲子(市原市)

日 時:2023年2月12日(日)10時から12時 天気:曇り
参加者:12名(大人9名、子ども3名) 指導員5名、他1名
担当指導員:玉川・梅宮

お天気に恵まれ、千葉クロスカントリーも開催されている中、「冬の植物の過ごし方」の観察会が始まりました。2班に分かれて、大人4人白い毛の密生するナツツバキの冬芽から開始。次のアスレチック広場に移動中、ちょっと遅れて参加予定の親子4人も合流。8人でハンノキの垂れた雄花序と小さな雌花序、果実をルーペで観察。マユミは頂芽の芽鱗と去年から残っていた4裂に割れた果実を見ました。隣のコナラの頂芽は頂生測芽があり、芽鱗を見ると五角形の形。勾配を降りて、ハクモクレンの毛皮の冬芽を指で触ってもらい、大きいのが花芽、細いのが葉芽。隣のコブシの冬芽はやや小ぶりで、枝の付き方に特徴があるのを観察しました。

移動してイヌシデとアカシデの冬芽。目をつぶった子ども達、大人もほっぺにつんつん。アカシデのほうがちょっと痛い。ハナミズキの花芽はタマネギ形。小さな葉芽との違いも観察。途中、子どもたちのトイレ休憩もあり、市町村の森に移動。ニセアカシア(陰芽)の冬芽がどこにあるか探してもらいました。プラタナスはちょうど茎だけ残って帽子を被った状態の葉柄内芽を見ることができました。途中、アジサイの裸芽をみて、展望台を経由して、トチノキに到着。最初に冬芽を触ってもらい、ベタベタした感触に驚きました。芽鱗痕がはっきりしているので、1年でのびた枝の長さ数え、地面には大きな実と殻も落ちていました。近くのロウバイの花は良い香り。種も沢山できています。落ちて実を割ってみるとゴキブリの卵のような形。見た目がコーヒー豆のようだ、参加者の言。花芽が集まったミツマタの冬芽、ユリノキのアヒルのくちばしのような冬芽、リョウブの陣笠を被った冬芽も観察。隣の梅林でウメの花と香りも楽しみました。午後から梅の観察会に参加する人達もいたので、ここで感想を聞いて解散としました。

初めての参加者が多く、大人は自然に関心がある人達だったので、とても熱心でした。子ども達も最後まで冬芽に触れたり、興味をもっていたので、充実した観察会となりました。



プラタナスのキャップ。葉柄内芽を体験中



ベタベタしたトチノキの冬芽と芽鱗痕